

# 大塔地球元気村のイベント内容

## ① 自然体験教室の開催

講師を招いて午前午後と様々な子供や親子を対象とした様々な体験教室を開催。木工教室などは夏休みの研究や工作など宿題を兼ねて参加する児童も多く、30年継続しています。2021年度はオンラインで開催しました。



あゆつかみ取り体験



カヌー体験教室



各種体験プログラム

## ② 地元小学生を交えた「SDGs 川と自然を考えるフォーラム」の開催

野外大型ステージにて毎年、ゲストを迎え、宮越実行委員長、真砂充敏田辺市長、地元鮎川小学校6年生がSDGsや川と自然の大切さについて話し合います。過去ゲストに水中カメラマンの赤木正和氏、内山りゆう氏、うなぎ博士他、2022年はインドマハラシュトラ州からAFJ(日印友好協会)スワティ局長をオンラインでゲストに迎え世界を意識したSDGsについて話し合いました。



ゲスト環境省自然保護事務所



インドマハラシュトラ州とのSDGs ミーティング



舞台を使ったPRの取り組み

### ③地元中学生発案のゴミ持ち帰り啓発運動

2016年から実行委員会に参加した大塔中学校の生徒たちがイベント後のゴミ掃除に参加。普段から川でのバーベキューゴミが多かったことと自然環境の大切さを訴えながらもイベントゴミが大量に出ることに問題意識を持ち、2017年大塔中の学生実行委員によって実行委員会で「ゴミゼロのイベント」が提起されました。校内でのキャッチコピー募集から選考、動画制作、SNS やステージでの発信など様々なアプローチで校内から始まり地域の大人も巻き込んで「ゴミ持ち帰り啓発運動」が展開されています。結果として大塔地球元気村イベント当日のゴミは数分の一に、大塔周辺の河川の不法投棄も改善されていることから「ゴミ持ち帰り」に対する意識は向上が見られます。



うちわ(表)



(裏)

### ④SDGs 出前授業と SDGs 展示会の開催

2021年から30年近く続けてきた大塔地球元気村の活動に加え、SDGs 啓発の通年の取組を開始。キッズプロジェクトとコラボした鮎川小学校へのSDGs 出前授業やJICAとコラボした大塔中学校への出前授業などを開催。関西圏でのラジオ番組や大手新聞で取り上げられました。また2022年からは野外イベント「大塔地球元気村」内にて、体育館を使い、各活動団体によるSDGsの取り組みやワークショップを開催し、子どもたちを中心に多くの来場がありました。コロナ禍前よりもイベント全体の滞在時間が大幅に伸びています。



キッズプロジェクト出前授業



大塔地球元気村 SDGs エリア出展団体



アニメ「怪獣ステップ」教室



ワークショップ告知



ゴミ拾いを加点したeスポーツ大会



ワークショップ受講記念写真

⑤企業の森間伐材を使った SDGs バッチ制作

和歌山県と田辺市が取り組む「企業の森事業」における「JT企業の森」から出る間伐材を使った「木製 SDGs バッチ」の制作に地元企業とJTをマッチング。出来上がったバッチは、2022年夏の大塔地球元気村にて当日ボランティアに配られ、身に着けられます。



⑥小学生による SDGs 新聞発行

出展団体キッズプロジェクトが企画し、SDGs 展示エリアの出展団体に小学生記者が取材をし、新聞を制作。取り組む大人に直接触れることでSDGs に対する理解を深めながら、子どもたちの自主性を高めています。新聞は地域の協力で地元1,500軒ほどに配布。



## ⑦ SDGs チャレンジマルシェ(脱プラスチックと少ゴミ化チャレンジ)

SDGs マルシェは参加するキッチンカーや飲食店に「各々が考える SDGs チャレンジ」を参加条件にお願いしています。自主性の高い取り組みを促すことで各自の意識の高さと波及効果を狙っています。(2023年はキッチンカー26台とテント1台)また出店料は無料ですが、収益の一部を当日 SDGs 展示会に参加している活動団体に寄付するアナウンスを実施、2023年は集まった約20万円をそれぞれの SDGs 活動団体にそのまま渡しました。

SDGs 活動をひろげるイベントのモデル創りに挑戦しています。



## ⑧ 各飲食店舗 QR 決済(大塔 PayPay 村)

2019年以降イベント当日における会場でのキャッシュレス決済推進をきっかけに会場周辺の地元商店にもキャッシュレス決済導入をお願いしています。高齢者のキャッシュレス決済増加などスマホが使える高齢者などが増え、都市部と過疎地域、世代間のデジタルデバイドを解消に取り組んでいます。また郊外型のスーパーではなく地元で買い物を増やすことにつなげています。

## ⑨ コロナ禍での取り組みとしての SDGs 啓発動画 CATV 配信(1 か月)

CATV 番組「SDGs 大塔地球元気村」(30分)

初めて、深い森と溪谷が県立自然公園に指定されている百間山溪谷。その水中に4Kカメラを潜入させ、資料としても貴重な映像を公開しつつ、SDGsや30年続けてきた大塔地球元気村での自然環境保護啓発、「大塔中発ゴミ持ち帰りイベント」の取組について紹介する。10月のSDGs週間にあわせてサイバーリンクスCATVにて約1か月間放送。



## ⑩ コロナ禍での取り組み。地元高校生とのコラボ「SDGs オンライン食堂」

全国の高校生料理大会やファミリーマートなど企業コラボで活躍する和歌山県立神島高校の商品開発クラブ「神島屋」とコラボしたSDGs レシピを2021年から大塔地球元気村HPで無料公開しています。神島屋で作る既存の地産地消レシピを「SDGs をテーマに各々考えてアレンジ」していただいています。



## ⑪ 舞台を使った取り組み。アップサイクルファッションショー「ひととはな」。

地元で活動する車椅子着付師であり、アップサイクルデザイナーである湯川晴美さんプロデュースのファッションショー。衣装は、「紀南地方の魅力」を表現しながら、いらなくなった着物やペットボトルなどの廃材を「捨てる前にもうひととはな」をコンセプトに制作されています。

また「多様性とインクルージブ」をテーマに出演した地元の17名のモデルたちは3歳の子ども連れ親子から70代の女性、義足の方、車椅子の方も出演し、集まった多くの観衆から喝采を浴びると共に、モデルたち自身も素晴らしい経験をしました。



⑫ 舞台を使った取り組み。「手話言語の国際デー・国際ろう者週間」ライトアップと創作ダンス「いんくるーじょん」

2023年度は開催日が「手話言語の国際デー・国際ろう者週間」にあたることから開催前夜にステージのブルーライトアップと啓発を行いました。また当日は地元出身のダンサーと聴覚障がいをもつプロダンサー達によるダンスユニット「いんくるーじょん」による手話啓発と創作ダンスが地元障がい者連盟の方々の応援のもと、披露されました。



「手話言語の国際デー」ロゴ



前夜のブルーライトアップと啓発



「いんくるーじょん」メンバー



本人たちのインスタグラムから



2023 大塔地球元気村 当日フィナーレを迎える舞台模様